

子どもの声に耳を傾けてみませんか

スマホになりたい



電話やメールだけでなく、SNSやインターネット、ゲームなど、1台で何でもできるスマホは便利なものです。ちょっと空いた時間には、ついついスマホを眺めてしまうという人も多いのではないのでしょうか。

しかし、度が過ぎるスマホの利用は、知らず知らずのうちに大切なコミュニケーションの場を失わせてしまっているかもしれません。

シンガポールのある小学生が書いた「スマホになりたい」という作文は、スマホに夢中になって自分に構ってくれない両親を見て、自分がスマホだったらいいのと思う子どもの率直な気持ちが描かれたものです。

この作文は、多くの人々に共感と気づきを呼び、日本でも絵本として出版されました。

(*) のぶみ著「ママのスマホになりたい」(WAVE出版・平成27年発行)

自分だけの時間を確保し、スマホを使いながらほっと一息つくことは、もちろん大事なことです。しかし、日々成長しながら変化している子どもの姿は、その時その時だけの貴重なものです。

少しだけスマホのことは忘れて、子どもと向き合う
かけがえのない時間もぜひ大切にしたいですね。



みえの親スマイルワーク

検索

社会で育む子どもの育ち

子どもは、保護者も周囲の大人も笑顔でいると「とても安心」「いろいろチャレンジできそう」と思うはず。そして、大人の背中を見ていろいろなことを感じているはず。

「自分大切にされている」という気持ちを持ち、子どもたちがそれぞれの力を発揮し、自分の人生を創っていけるための家庭教育や子育てを社会全体で考えていきたいものですね。



受援力

仕事が忙しかったり、なかなか子どもと関われなかったり、様々な事情があります。

そんな時、身近な人に頼ってみる受援力も大切。「誰かの役に立ちたい!」と思っている人が近くにいるはず。

ほんの一言「頼んでもいいかな」など声を出してみませんか?

*受援力・・・他者に助けを求め、
快くサポートを受け止める力

成田先生からのメッセージ

皆さんは、ご自分のお子さんが、少しでも良く育てほしいと願いながら、毎日子育てに励んでいらっしゃることでしょ。う。「元気な子に育てほしい」「賢い子に育てほしい」「人を思いやれる子に育てほしい」など、家族が子に願う「良く育つ」の意味にはさまざまあります。でも、実はどれも根っこは同じで、つながっているのです。子どもの良い育ちとは、すなわち「良い脳の育ち」であると言いかえられます。

きちんと太陽のリズムに合わせた生活を行い、毎日家族で言葉を交わしあい、体を動かして遊ぶこと。これらが繰り返される家庭生活こそが、心身共に強靱で、賢く社会に適応できる「良い脳の育ち」を促します。そしてこれはまた親にとっても、子育てがどんどん楽になり楽しくなる秘訣でもあるのです。



発行元: 三重県健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課(平成29年)

監修: 成田奈緒子氏(文教大学教育学部特別支援教育専修教授、小児科専門医医学博士)